ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNO.									

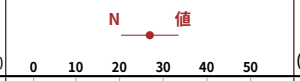
シートNO.

ボーリング名	B-4			調査位置						北　緯	36 ° 44 ’ 5.1800 ”
発注機関	栃木県　矢板土木事務所					調査期間	2008-10-21 ～ 2008-10-21			東　経	139 ° 58 ’ 27.0600 ”
調査業者名				主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	163.22 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 0.00 °	使用機種	試錐機	ハンマー落下用具	
総掘進長	5.00 m								エンジン	ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) ／ 測定月日
1 2 3 4 5	157.77	5.30	5.45		表土 (SF) 砂質火山灰土 (VAS)	暗茶灰 淡茶灰			シルト系土を主材料とする盛土で、φ10～30mmの礫分を混入する。 川崎層群，館ノ川凝灰岩と呼ばれる第4紀洪積世の火山性地盤に相当する。 軽石質火山灰土を主体に多量の砂分を含有し、含水中位で硬い。 局所的にφ5～30mm程の風化礫を散在し、最大ではφ40mmを認める。 軽石は白色細粒状となり、土壌化している。 GL-4m付近、砂分の含有がやや少ない。		10/21 3.95

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0－10	10－20	20－30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	4	5	5	14／30	14
1.45					
2.15	5	5	6	16／30	16
2.45					
3.15	5	4	6	15／30	15
3.45					
4.15	4	4	7	15／30	15
4.45					
5.15	5	7	8	20／30	20
5.45					



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日
						10/21